

## 令和元年度 第1回地域医療対策協議会 協議結果

日時：令和元年8月7日（水） 17:00～18:30

場所：石川県庁行政庁舎11階 1110会議室

### <地域医療対策協議会について>

- 協議会の設置目的及び協議事項等について、事務局より資料1に沿って説明があった。
- 構成員の互選により、大竹茂樹氏が議長に選出された。

### <本県における医師確保の現状について>

- 本県における医師確保の現状について、事務局より資料2及び資料3に沿って説明があった。

### <専門研修プログラムについて>

- R2年度の県内の専門研修プログラム及び専攻医募集シーリングに関する国への意見（案）について、事務局より資料4～資料6に沿って説明があった。
- 各構成員より、次のような意見が述べられた。

#### 【R2年度 石川県内における専門研修プログラムについて】

- ・内科をはじめ、主な診療科において能登北部も含めた医師不足地域で研修ができる仕組みとなっており、問題ないのではないか。
- ・ダブルボード（基本領域専門医の複数取得）を見据えるとカリキュラム制は重要であるため、もっとカリキュラム制を設けてもらう必要があるのではないか。
- ・総合診療科については、能登北部が連携施設に含まれているほか、加賀市医療センターのプログラムも追加されており、問題ないのではないか。

#### 【専攻医募集シーリングについて】

- ・大学が2つあり県外へも多数の医師を派遣している中で、石川県だけシーリングをかけられている面があるので、県外への派遣の実態を示し、シーリングに反映することを主張していくべきではないか。
- ・県外への派遣の実態を調査し、他県の動向も見ながら対応していったらどうか。
- ・シーリング対象外の県が厳格な適用を求めている中で、「シーリングをやめてほしい」では通らないと思うので、全国的な見地からの意見として、事務局案は妥当なものと考えられる。

- これらの意見を踏まえ、専門研修プログラムに関する協議会の意見が次のようにとりまとめられた。

- ・R2年度の専門研修プログラムについては、カリキュラム制の充実を図るべき。
- ・専攻医募集シーリングについては、教育・研究に多くの時間を充てている大学病院医師の勤務実態を適切に反映することに加え、小児科をはじめとする全国的に不足感が強い診療科については、シーリング対象とすべき。

- また、県外への専攻医派遣の実態を調査の上、他県の動向を注視し、国への意見提出を検討することとなった。

## <医師確保計画について>

○医師確保計画策定の背景及び骨子案等について、事務局より資料7に沿って説明があった。

○各構成員より、次のような意見が述べられた。

- ・医師多数区域でも医師少数区域でもない南加賀地域、能登中部地域についても、医師確保の方針を明確に記載すべき。
- ・白山市は産科医が不足しているが、二次医療圏単位では比較的産科医が多いとされる石川中央に含まれてしまうため、表現について検討が必要ではないか。
- ・資料2の「医師数の変化」にあるように、40代以降になると全国に比べて医師が流出する傾向があるため、これをいかに留め置くかという施策が必要ではないか。
- ・資料2の「医師数の変化」が意味しているのは、石川県が県外も含めた地域の医師確保に貢献していることであり、この点を他県にも正しく理解してもらえるように表現していく必要がある。
- ・40代以降の医師が実際にどこからどこに転出しているのか数字がないと説得力に欠けるのではないか。
- ・金沢大学特別枠が最も実効的な医師確保施策となっているが、R4年度以降、現在の臨時定員増がなくなった場合、特別枠が引き続き確保できるのか、関係者で合意しておく必要があるのではないか。
- ・特別枠が今後どの程度必要なのかシミュレーションをする必要がある。
- ・医師偏在指標については、大学勤務医も一般の医師と同等に扱われているように、必ずしも万能なものではないので、指標に振り回されないようにする必要がある。

○これらの意見を踏まえ、事務局において必要なデータを整理し、次回協議会において示すこととされた。